

教育フォーラム 2022

ワールドカフェ形式の意見交換

■■■■■■■■■■ テーマ ■■■■■■■■■■

第1ラウンド

「横須賀の好きなところをあげてみよう、話してみよう」

第2ラウンド

「その横須賀を一緒につくる「あなた」との関わり」

第3ラウンド

「自分自身「私」はどうありたい？」

第4ラウンド

「振り返りーそんな人づくりのためにできることは？」

■■■■■■■■■■



関東学院大学法学部
地域創生学科
牧瀬ゼミナールの皆さん
がテーブルホストとして
運営・進行をお手伝い
してくださいました。

[解説] ワールドカフェとは

共通のテーマを設け、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、ラウンド毎に他のテーブルのメンバーとシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法のひとつです。

テーブルNo. 1 テーブルホスト：井上 友希

■「好き」について発信し合うことが重要

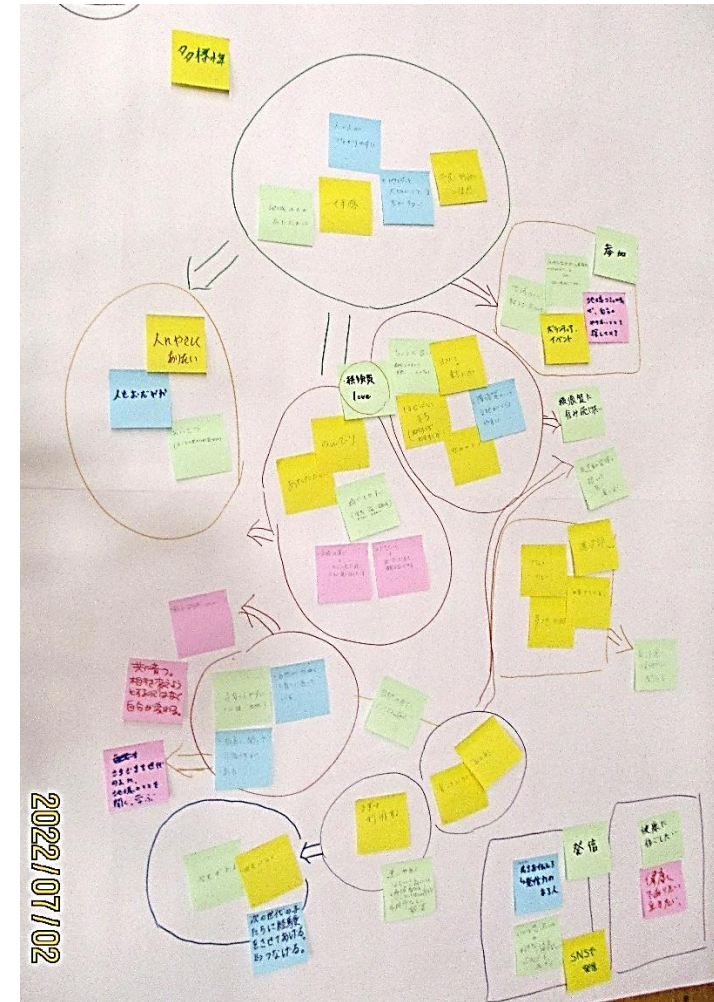
(参加・発信・再発見による人づくり)

第1ラウンド---横須賀の好きなところとして・自然が多い・子育てがしやすい・暮らしやすい。といった意見が出ました。

第2ラウンド---「自らが感じている魅力について、互いに発信し合う。」という意見が出ました。具体的には、「好き」と感じる要素は世代や立場によって異なるため、SNSやワークショップを通じて「横須賀の好きなところ」を互いに共有すべきという意見です。

第3ラウンド---上記の発信を行うための前提として、「自ら積極的に地域のイベントへ参加することや、子ども達が新たな経験や学びを得られる環境づくりを行うことが大切である。」という意見が出ました。

第4ラウンド---「まず、市民一人一人が積極的に参加・発信・共有を行い、横須賀の魅力を再発見することが大切。そして、この再発見の輪を拡大させていくことが『横須賀が好き』と誇れる人づくりに繋がるのではないか。」という意見が出ました。



テーブルNo. 2 テーブルホスト：村野 敦哉

■まずは自分が好きになることが大切

第1ラウンド---「横須賀の好きなところ」では、食、歴史、文化という共通のものが出てきました。特に「この街は一色ではない」というものに皆さん共感を得ており、外国の方が多いことに加え、産業など様々なものが入り組んでいるという意味だそうです。

第2ラウンド---「あなたとの関わり」では、最初に挙げた食や文化を通じて人と関わることに加え、地域における積極的な交流という項目が多く見られました。

第3ラウンド---「私はどうありたい？」では項目の中で全員が納得したものがありません。「まず自分が好きになることが最初の一步」というものです。横須賀に来てもらいたい、楽しんでもらいたいと思う前にまず自分から、という意味だそうです。

第4ラウンド---では、自分から、積極的に、自発的に行動する、というような項目が多く出ました。最後は、自分で動き、知り、楽しんだ上でこの横須賀を好きになることが大切、という意見がまとまりました。



テーブルNo. 3 テーブルホスト：濱崎 雄大

■優しさが溢れる街 横須賀

第1ラウンド---主に横須賀市の良いと思うところを出し合いました。その中で多く出てきた意見は、自然が多いところでした。そこから、自然を含む公園などがあることによって子どもが元気に過ごすことが出来ていると繋がりました。

第2ラウンド---横須賀を一緒に創る上で「あなた」との関わりにおいて、多く出てきた意見は、優しさでした。他にも、横須賀の魅力を発信するなどの関わり合いという観点も多くなりましたが、優しくすることは自分が意識さえすれば容易に達成することができると班全体が同じ意見を持っていました。

第3ラウンド---自分自身がどうありたいかについて、ほとんどの意見が自分のためにどうするのかという意見が多く出てきたのですが、一つだけ地域医療の向上をサポートという自分だけではなく他を考える意見がありました。

第4ラウンド---そんな人づくりのためにできることについて、一番議論が進んだ意見は世代の引継ぎでした。各世代の意見を聞くことでさらに横須賀をいい街にしたいと話合っていました。



テーブルNo. 4 テーブルホスト：兵頭 菜白

■地元トークに花が咲くアットホームな横須賀

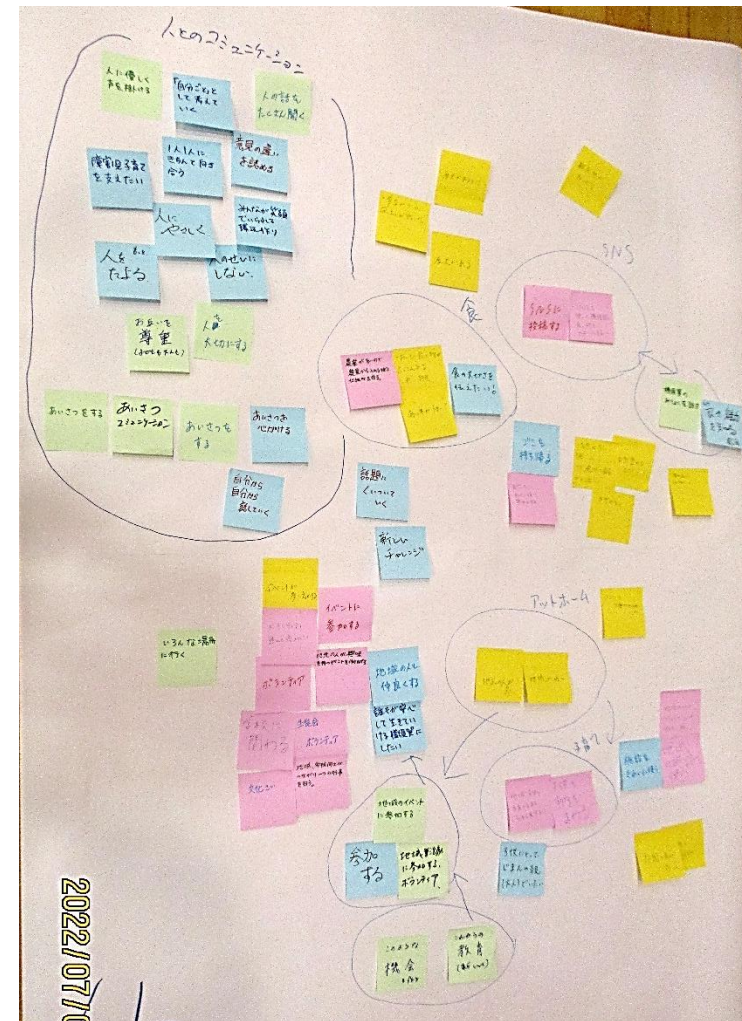
第1ラウンド---海の幸が美味しい・地元トークに花が咲くの2点が、横須賀の好きなおところとして大きくあがりました。

第2ラウンド---自分自身が積極的にイベントに参加するという意見が、多くあがりました。また、SNSを利用して、横須賀の魅力を伝えるといった意見もあがりました。SNSは、私たちの生活には欠かせないものになっていると感じました。

第3ラウンド---人とのコミュニケーションに関する意見が、多くあがりました。人は皆、色々な意見や考えを持っています。しかし、意見の違いを認め、お互いが尊重し合うことが大切なのではないかという結論にいたりしました。

第4ラウンド---今回の教育フォーラムのような機会をたくさん作る。そして、地域活動に参加する人を増やしていきたいという意見があがりました。また、日頃の挨拶などを大切にしていきたいという意見もあがりました。

どのラウンドでも、地元トークで盛り上がり、参加者の横須賀愛を感じることができました。



テーブルNo. 5 テーブルホスト：中田 季里玖

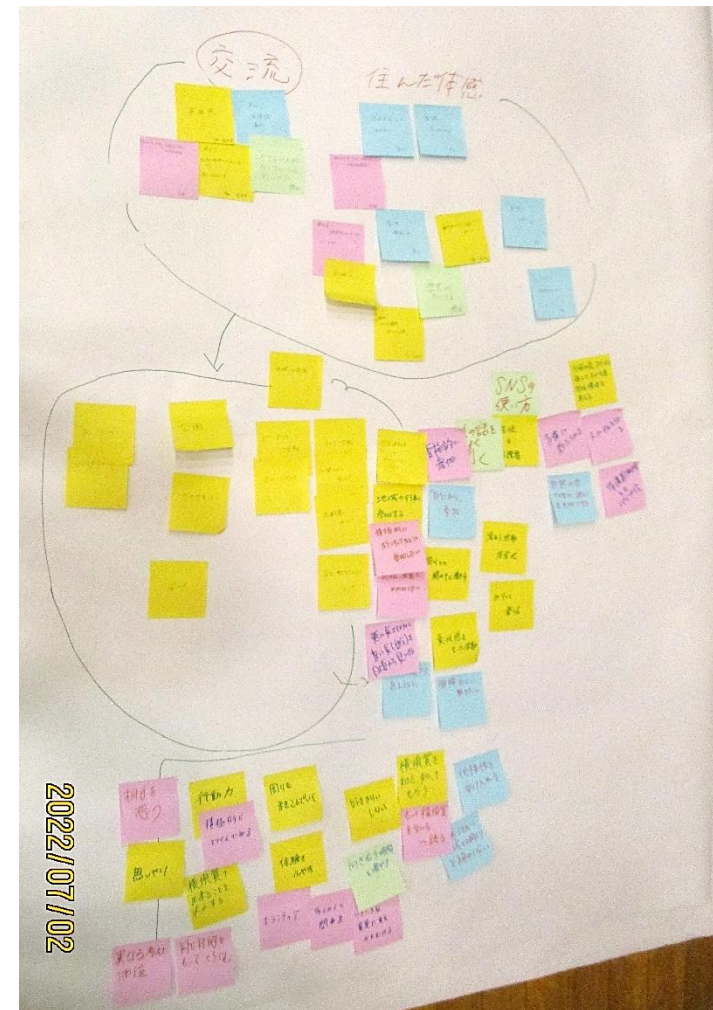
■地元愛にあふれる落ち着く横須賀

第1ラウンド---横須賀市に住んでいるものと、住んでいないものが集まっていたため、それぞれの観点から見た横須賀市の好きなのところを挙げた。住んでいる体感で、歴史が多い・フレンドリーな人が多い、という意見があり、住んでいない人からは、異国間や程よい田舎、都会感があるという意見が挙がった。

第2ラウンド---横須賀市に住んでいる大人が多く集まり、交流するときどんな関わり方をしているかについて意見交換した。意見では、清掃活動や市民運動会、ボランティアで横須賀市と関わっているという意見が多く挙がった。

第3ラウンド---横須賀をより良くするために自信がやっていきたいことについて述べた。この中では、積極的に行事参加したり、魅力発信のために SNS の使い方を考えていくことが重要だという意見がでた。

第4ラウンド---相手のことを思った行動、横須賀市を知ってもらう活動をする、横須賀市でしかできないことを1人ではなく周りを巻き込んでやる必要があるという意見がでた。



テーブルNo. 6 テーブルホスト：上田 寿乃

■横須賀の魅力を再発見することができた

第1ラウンド---「横須賀の好きなところ」としては、海もあり、山もあるという自然の豊かさ、都心へのアクセスの良さという立地の良さが多く挙げられた。

第2ラウンド---「その横須賀を一緒につくる「あなた」との関わり」としては、まずは横須賀を訪れる、横須賀について知るといった意見と、ボランティア等への参加やあいさつをするといった地域や人との関わり合いが大切と言った意見が多く挙がった。

第3ラウンド---「自分自身はどうありたいか」としては、横須賀という地域、人と関わる自分という意見が多く挙がった。

第4ラウンド---「そんな人づくりのためにできること」としては、横須賀を知るといった意見や、様々な人と関わるということが挙げられた。それぞれの立場によって出来ることは異なるからこそ、お互いがどう考えているか、どんなことが出来るかを知れる今回の教育フォーラムのような機会は重要であるという結論にいたった。

今回のワールドカフェを通して、横須賀市民の横須賀を大切に思う気持ちを感じられた。



テーブルNo. 7 テーブルホスト：梅原 響

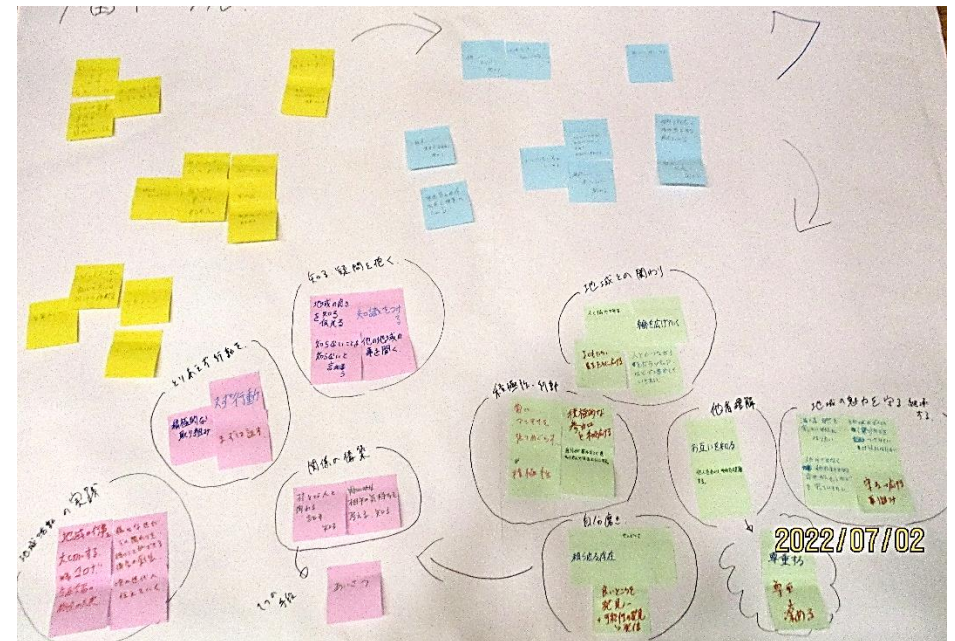
■横にも縦にも後世にもつながりを持てる地域に

第1ラウンド---横須賀の好きなところをメンバーで話し合いました。内容としては、都心へのアクセスの良さや海・山の両方が豊かであること、ペリー来航を筆頭とした深い歴史など様々な魅力が挙げられました。

第1ラウンド---横須賀に対してあなたとの関わりについてがテーマです。イベントへ積極的に関わるという意見や参加された先生方からは、教員への地域についての研修などの意見が挙げられました。

第1ラウンド---これまでを含めて自分はどうありたいかということについて話し合いました。地域の人との関わりを持つ、地域の魅力を守る・伝えるといった活動に参加するという意見が多く挙げられました。また、相手を知る、自分を磨くという声も挙げられました。

第1ラウンド---そんな人づくりのためにできることは？というテーマです。知る・疑問を抱くなどのきっかけを作ること、そしてまずは行動してみる、それらを地域活動という場で実践していくことが重要なのではという意見が挙げられました。



テーブルNo. 8 テーブルホスト：清島 蓮

■老若男女みんな違ってみんないい

第1ラウンド---横須賀の好きなところをあげるという事で、自然・観光・食事という意見が出た。

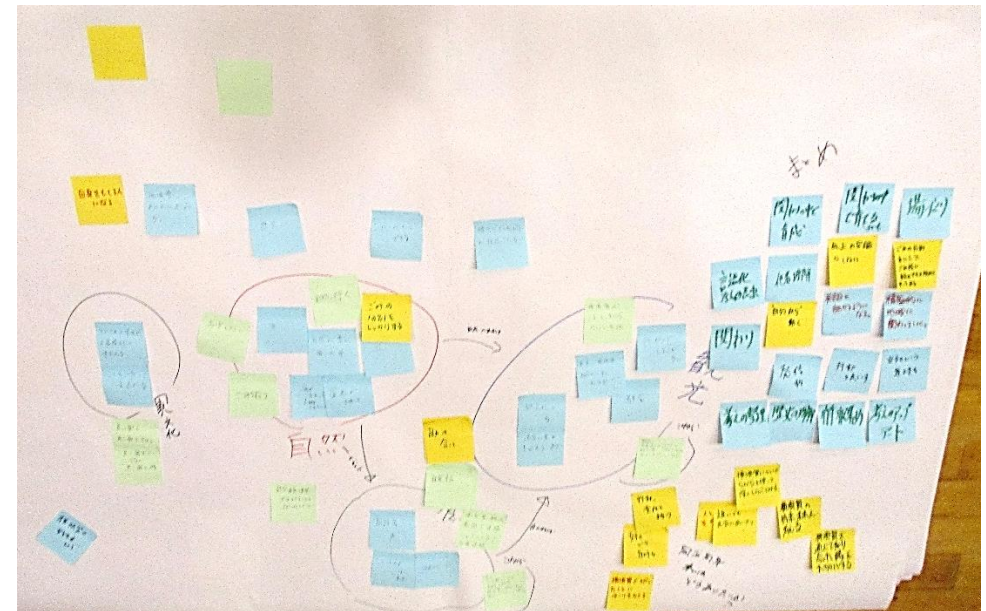
横須賀に住んでいる人とそうでない人で好きな場所に違いがでた箇所もあった。

第2ラウンド---関わり方を考えるという事で、行動の関わり方と心情の関わり方の意見が出た。「良い面、悪い面の両方を知る事が大事」という意見があり、悪い面を解決することによって良い面がさらに活きるのではないかと思った。

第3ラウンド---「自分自身「私は」どうありたい？」

このラウンドでは、心情が多くでた。「好きという気持ち」「助け合いの精神」など自分自身の考え方が横須賀に対してだけでなく、日々の生活にも繋がっていくのではないかと思った。

第4ラウンド---まとめの内容になった。「机上の空論にしない」という意見があり、今回の討論をどう次に活かしていくという事が大切であると思った。



テーブルNo. 9 テーブルホスト：横山 光希

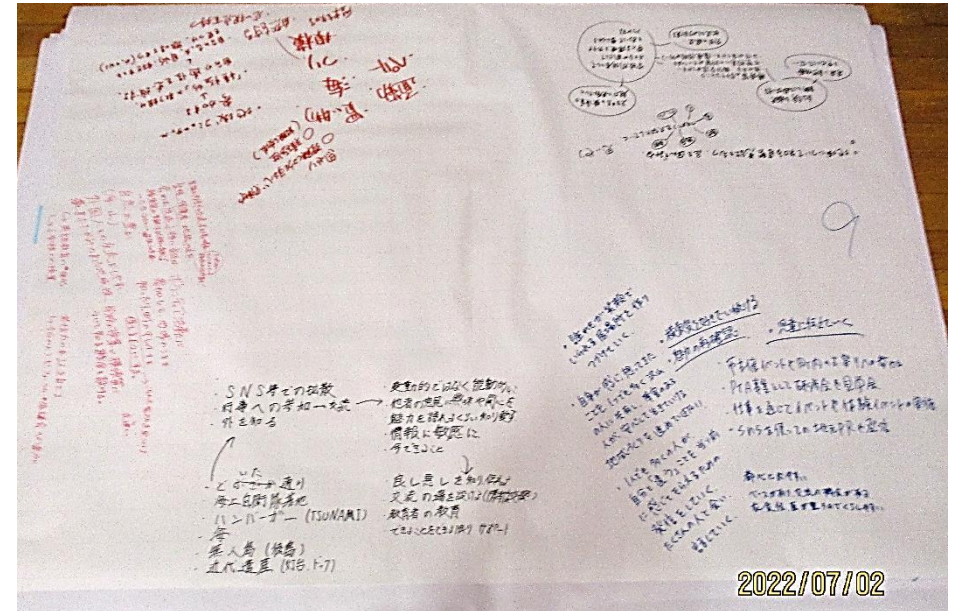
■魅力の共有と再発見愛しの横須賀

第1ラウンド---横須賀の好きなところとして、都心へのアクセスの良さや衣食住医がまんべんなく揃う立地の良さをあげる方や、海や山といった自然の豊かさ、近代遺産、外国人との交流の機会が多いと言った地域の特性をあげる方もいた。

第2ラウンド---その横須賀を作るあなたとの関りでは、学生の意見では地域行事への参加、SNSで魅力を拡散が多く、教育関係者からは子供が安心して学べる環境を整えるなど、経営者の方からは仕事を通じてイベント等の開催があげられていた。

第3ラウンド---自分自身どうありたいかでは、横須賀を好きでい続けるや、魅力の再確認、後世へと伝える、受動的ではなく能動的に行動、情報に敏感、今できることを精一杯になどがあげられた。

第4ラウンド---そんな人づくりのために出来ることはでは、発信力のある人を育成できる環境を整える、思いやりを持って接する、実際に見る足を運ぶ、考えや想いの共有、皆が笑顔でいられる居場所づくりなどがあげられた。



テーブルNo.10 テーブルホスト：坂本 勇士郎

■もっと知ろう、もっとつくろう横須賀

第1ラウンド---海や山などの自然が豊かな点や、歩道が広く散歩コースに適した道が多いことなどの環境に関する魅力や、外国人が多いため様々な国の知識や考え方を知ることができる点が魅力として多く挙げられていた。

第2ラウンド---自然環境への関わり方としては、清掃活動への参加。外国人との関わり方としては、英語の習得や異文化交流の推進などが挙げられていた。また地域と関わるためにはそもそも活動自体や横須賀を知る、機会を作ることが必要であるという意見も出た。

第3ラウンド---様々な人との関わりを大事にするという中で、相手の気持ちを考えられる自分でありたいという意見や、地域として暖かい雰囲気を作ることなどが挙げられていた。

第4ラウンド---あたたかい雰囲気づくりには、基本的な挨拶をすることや、周囲の人と関わりを積極的に持つことが重要という意見があった。また機会を作る方策として、Twitterを始めとするSNSを活用した情報発信も挙げた。



テーブルNo.11 テーブルホスト：田端 慎太郎

■横須賀の良さを次の世代に向けて引き継ぐ

第1ラウンド---大きく分けて「交通網の整備が進んでいる点」と「自然の豊かさ」の2つに分けることができた。

第2ラウンド---中学生から祭りなどの伝統をしっかりと引き継いでいくことが重要などといった意見が出た。また、少子高齢化やコロナ禍によって消えていっている行事をただできないとするのではなく、新しい形で作り上げていく努力をするなどといった声があった。

第3ラウンド---地域に参加する意識を持つことが大事だという意見が多く出た。そこで得た人のつながりを大切にする人であろうすることが重要なのではという意見にまとまった。

第4ラウンド---地域に参加する意識を持ちつつ、横須賀市は多国籍な街であるため海外の人々とのかかわりや若い世代との交流の場を今以上に重要なものだと考えて、横須賀市の伝統を守り継承していくことで私やあなた、横須賀が好きだといえるようになるという結論となった。

